

# 7.4三里塚へ

# 二期着工攻撃のイスカートを 粉碎しよう！

その1



# 日刊 勤労千葉

82.6.29

No. 1081

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五〜六(公衆)四三三二七〇七

## 完全に決戦に突入 した三里塚現地

### 切り崩すのために敷地内に潜入してきた 公団を、天神峰と東峰で摘発し撃退(6%6%)

全ての組合員の皆さん、三里塚現地は現在新たな本格的な決戦に突入している。反対同盟は連日、全員決起で闘いに立ち、意気高く勝ち進んでいる。追いつめられ後のない敵は崩き直り凶暴化している。反対同盟は、この決戦を勝ちぬぎ夏から秋にむけた大反撃戦への突破口として、来たる七月四日、三里塚現地の全国総決起集会を呼びかけている。全力でこれに 대응、二期決戦勝利で軍事大国化改憲への道を阻止しよう。

六月七日、天神峰(敷地内)の市東(とう)東市さん宅に三人の男が訪ねて来、「雑草が大変です。この除草剤を使ってみたいかがですか」と親切顔を、除草剤を置いていこうとした。「おかしい」と直感した市東さんが「この者だ」と向いつめると、シドロモドロ。接中の支援も加えて追及。氏名自身を隠していた三人は正体を見破られ、ついに空港公団の用地部の職員であることを白状した。「こんなもの受けとれるか、出て行け、二度とくるな」と叩き出され顔面蒼白になって車で逃げていった。

六月九日、今度は、東峰部落の石井武さんと萩原進さん宅に、やはり、除草剤をもって潜入し、何とか話し合い、近づきのき、かけを引出そうと企んだが、たちどころに見破られ、ここでも空港公団は完全に叩き出された。

## 反対同盟の よみがえり志、七・四全労で三里塚へ

昨年暮から本年初頭にかけて運輸省服部ら最高責任者ら先頭にした反対同盟丸ごと条件取へのとりこみを狙った、かつてない大がかりで卑劣な秘密工作が強力に展開された。これは石橋・内田という反対同盟の最高幹部(その後同盟はこの両名を厳しく弾罪して、役職を解任した。本年2月)を屈服させ、とりこみ、反対同盟を条件取に変質させ、土地を売らせるための工作であった。

しかし、昨年12月25日午前6時、札束をふところにお話したい」と、しつこくとり入ろうと潜入を企んだ服部ら運輸省公団の最高スタッフらを、「フガケルな！お前達と話し合うなどという基礎はない。帰れ！」と一喝のもとに叩き返した。あの天神峰の小川嘉吉さん、喜平さん両家の断固たる反撃を起点として、反対同盟とりわけ敷地内農民の血のにじみ出るような反撃が開始された。全国三里塚を闘う仲間も全力の支援に決起した。一月、二月、三月、この怒りの総反撃、そして空前の大結集・怒りの爆発を見せた。28現地大集会の成功、石橋内田役職解任と同時に、「一切の話し合い拒否。空港

廃港・農地死守」の同盟基本路線をあらためて再確立し闘う体制の一層の強化をかちとった反対同盟の不慮の反撃の前に、敵は歯ざりして後退せざるを得ない所に追いつめられていた。そしてわれわれは、反対同盟を先頭に、5月23日、24日を中心に、三里塚反戦反核の4万人決起合流の突破口を築いてきた。82年前半、反対同盟を先頭とした人民の前進によって、敵の二期着工プランは大巾な危機に叩き込まれた。それ故の、なりふりかまわぬ必死のまき返し——これが、今回の、自分をかくして除草剤の袋を持参して潜入を企むという敵のあせりと居直りである。83年には何としても着工したい、「そのためには、82年度中に用地問題を解決したい」と公然と言い放って敵は今、おどしと懐柔、あらゆる手をくりあげ、まき返しに出てきてくるのである。特に、農業の命といわれる水をエサに、成田用水問題をきつつけ、いわゆる「条件取農民」づくりをもって、反対同盟を解体する攻撃につとめてきている。つまり、組合的に言えば、ストライキ決戦の前に、当局(企業)に全面協力するようなヤニ組合づくりの攻撃に手を付けているのだ。

三里塚は、夏から秋への闘いは更に重大である。全力で決戦に入っている反対同盟の呼びかけに、7.4全国総決起集会の大結集をもって、突破口を開こうではないか。